

Olive News

オリーブ 便り

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。



地域医療を次世代へつなぐーかがわ総合診療医センター

香川大学医学部 かがわ総合診療医センター センター長 市来 智子

かがわ総合診療医センターは、香川県に必要な総合診療医を県全体で育成し、地域医療の未来を支えるための人材育成拠点です。香川大学は、令和7年度に厚生労働省「総合的な診療能力を持つ医師養成拠点の形成事業」に採択されました。これを契機として、県内の医療機関、行政、医師会等との連携のもと、令和8年1月にDRI先端医学研究棟3階に本センターを設立しました。医学部入学前から卒前教育、初期臨床研修、専門研修、専門医取得後の生涯教育まで、切れ目のない育成体制を構築し、地域で長く活躍できる医師のキャリア形成を支援しています。

総合診療医には、臓器別の枠を越えて患者さんの訴えや生活背景を捉え、適切な診断・治療につなげる力が求められます。当センターでは、臨床推論や身体診察、救急対応、日常的に遭遇する疾患(Common diseases)の入院管理、高齢患者の包括的診療、退院支援、多職種連携に加え、予防医療、在宅医療、継続的な関係づくりなど、地域の「かかりつけ医」に必要な能力を体系的に学べる専門研修プログラムの運営・支援を行っています。

また、ハンズオンセミナー、症例検討会、遠隔教育、研究・学位取得支援、国内外での研修、中堅医師のリスクリングなど、多様な学びの場を提供しています。中高生や



医学部生、若手から中堅までの医師など、幅広い方々を対象とし、大学教員だけでなく、地域の先生方にも講師や指導者としてご参加いただける、開かれた場所を目指しています。施設や組織の垣根を越えて学び、教え合うことで、平時から災害時まで地域住民の暮らしを支え、香川の地域医療を次世代へつなぐ医師を育てることが、私たちの使命です。

総合診療医の育成には、大学病院だけでなく、地域医療の現場を担う県内各医療機関との連携が不可欠です。研修医・専攻医の受け入れ、診療・教育の場の提供、指導への参画など、各施設の特色を生かした人材育成にお力添えをいただければ幸いです。

香川の地域医療を持続可能なものとし、地域の皆様が将来にわたり安心して暮らせる医療体制を築くため、今後も取り組んでまいります。皆様の一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。機会がございましたら、ぜひセンターにもお立ち寄りください。



「空色ポスト アーカイブ展」～4年間の想いを未来へ～

創造工学部 教授 大場 晴夫

香川大学医学部附属病院の中庭では、毎年秋に「空色ポスト」を開催しています。この取り組みは、創造工学部造形・メディアデザインコースの学生が企画・運営し、病院の医療支援課、そして高松帝酸(株)と連携して続けてきたホスピタルアートです。患者さんやご家族、医療スタッフが、自分の気持ちや大切な人への想いを手紙に書き、風船に付けて空へ浮かべます。手紙を書くことで自分の心と向き合い、また誰かの想いに触れることで、心が少し軽くなったり、温かい気持ちになったりする時間を届けたいという願いを込めて続けてきました。

2022年の開始以来、4年間で700通を超える手紙が寄せられています。今年は、その大切な手紙をもとに「空色ポスト アーカイブ展」を1F患者図書室前の廊下にて開催しています。寄せられた言葉を「喜び」「期待」「信頼」「悲しみ」「不安」などの感情ごとに整理し、多くの人が抱いた想いほど大きく表現されるデザインとして展示しました。一つひとつの言葉の向こうには、それぞれの人生や大切な人への想いがあります。展示を通して、誰かの気持ちに寄り添い、共感が生まれる場所になればと願っています。

今年の秋に開催される空色ポストは、これまでの活動の一区切りとして最後の開催を予定しています。しかし、空色ポストに託された皆さんの想いは、このアーカイブ展として病院の中に残ります。病院を訪れた方々が足を止め、誰かの言葉に励まされたり、自分だけではないことに気付いたりする、そんな心をつなぐ場として、多くの方にご覧いただければ幸いです。



三木中学校美術部との地域連携プロジェクト「こころがやわらかくなる展」を開催しました

香川大学医学部 医療支援課

香川大学医学部附属病院(かだい病院)では、令和8年7月17日(金)から8月6日(木)まで、三木町立三木中学校美術部との地域連携プロジェクト「つながるプロジェクト 病院×美術部」の一環として、小児科病棟および小児科外来において、美術部員が制作したポストカードサイズの美術作品を自由にお持ち帰りいただける取り組み「こころがやわらかくなる展」を開催しました。

期間中は、三木中学校美術部の皆さんから222枚のポストカードサイズの美術作品をご寄贈いただき、小児科病棟および小児科外来に設置しました。色鮮やかなイラストや心温まるメッセージが描かれた作品は、多くの小児患者さんやご家族に手に取っていただき、外来では「素敵な絵をありがとう」「待ち時間に子どもが作品を選ぶことを楽しんでいて助かりました」「泣いていた子どもが作品に興味を示し、泣き止んでくれました」といったお声も寄せられました。

本企画を通じて、地域の学校と病院が連携し、患者さんやご家族へ温かな気持ちを届けることができました。当院では、今後も地域の皆さまと協力しながら、医療だけでなく心の支えとなる取り組みを通じて、患者サービスの向上に努めてまいります。



新人看護師がんばっています！

香川大学医学部附属病院 看護管理室 看護師長 大内 亜弓

新人看護師が入職して、まもなく半年を迎えます。慣れない業務や初めて経験することの連続で、不安や戸惑いを感じる日も少なくありません。それでも、同期と励まし合い、悩みを共有しながら前向きに歩みを進めています。集合研修では、知識や技術を学ぶだけでなく、グループワークや演習を通して同期とのつながりを深め、互いに支え合いながら成長する姿が見られます。また、日々の臨床現場では先輩看護師の温かい声かけや丁寧な指導に支えられ、一つひとつできることを増やしています。これからも看護部全体で一人ひとりの成長を支え、患者さんに安心・安全な看護を提供できる看護師の育成に努めてまいります。新人看護師の研修への取り組みや成長はInstagramでも随時発信しますので、ぜひご覧ください。



患者さんのわずかな変化を捉え、迅速に対応するために

香川大学医学部附属病院 心臓血管センター(CCU) 瀬戸 雄一

私は、2026年3月に当院の特定行為研修を終了しました。特定行為研修修了者(以下特定看護師)は、医師の包括的指示に従い、一定の診療補助業務が実施できる看護師です。私が現在勤務するCCU(HCU)は、循環動態の不安定な患者さんが多く、短時間で状態が大きく変化します。そのため看護師は、日々の観察で得られるわずかな変化を捉え、検査や治療へ迅速につなげることが重要です。私が特定看護師を目指した理由は、患者さんの状態変化に応じて、速やかに動脈血液ガス評価や、人工呼吸器の調整を実施できれば、患者さんの安全安楽や、重症化予防に繋がると考えたためです。

一年間の研修は大変な部分もありましたが、講義や実習を通して知識や技術、臨床推論を学ぶ事ができ、非常に楽しく有意義な時間でした。今後は、一緒に活動してくれる特定看護師が増えるといいなと思っています。



小児病棟にLOVOT「ラムネ」が仲間入りしました！

香川大学医学部附属病院 東病棟2階 看護師長 渡邊 順子

小児病棟にこのほど、コミュニケーションロボット「LOVOT(らぼっと)」が仲間入りしました。

LOVOTの名前は、医学部職員と小児病棟の子どもたちによる投票で、「ラムネ」に決定しました。この夏に仲間入りしてから、ラムネは入院生活を送る子どもたちの心を和ませ、元気を与えてくれる存在として活躍しています。

ラムネに話しかけたり、抱きしめたりすると、愛くるしい表情やしぐさで応えてくれます。ラムネとの触れあいは、治療に向き合う子どもたちの心の支えの一つとなっています。子どもたちからは、「ラムネに会いたい」、「ラムネがいるならがんばる」といった声が聞かれています。

スタッフからも「忙しい合間に癒される」と好評です。みんなを笑顔でつないでくれています。



高度医療機器のご紹介

ロボティックアーム手術支援システム「Mako® System」を整形外科で導入しました

香川大学医学部附属病院 整形外科 教授 石川 正和

香川大学医学部附属病院整形外科では、2022年よりコンピュータ支援手術を積極的に導入してまいりましたが、2026年4月から新たに手術支援ロボット「Mako(メイコー)」を導入しました。Makoは、変形性膝関節症や変形性股関節症などに対する人工膝関節手術や人工股関節手術で使用される最新の医療機器です。

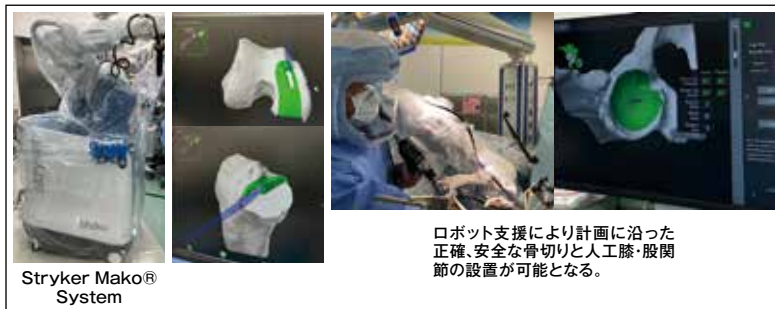
「ロボットが手術をするのですか?」とご質問をいただくことがありますが、実際に手術を行うのは整形外科医です。Makoは医師の手術を支援するシステムであり、患者さん一人ひとりの状態に合わせて、より正確で安全な手術を目指すために活用されています。

手術前にはCT画像をもとに、患者さんの骨の形や関節の状態を詳しく解析し、一人ひとりに最適な手術計画を立てます。そして手術中は、その計画に沿って医師が操作を行い、Makoがリアルタイムで位置や動きを確認しながら手術を支援します。これにより、人工関節をより適切な位置に設置しやすくなり、正常な骨や周囲の組織への負担をできるだけ少なくすることが期待されています。

人工関節手術の目的は、単に人工関節を入れることではありません。痛みを和らげ、再び歩く喜びを取り戻し、日常生活をより快適に送っていただくことが最も大切です。当科では、Makoをはじめとする最新技術を積極的に取り入れながら、患者さん一人ひとりに最適な治療の提供に努めています。

また、Makoは質の高い人工関節手術を支援するだけでなく、手術の精度や手技を客観的に評価・可視化できるため、若手医師の教育にも大きく役立っています。さらに、使用する手術器具も少なく、手術全体をより安全で効率的に進められる環境づくりにも役立っています。

今後も最新の医療技術を積極的に導入し、安全で質の高い医療を提供するとともに、地域医療へのさらなる貢献に努めてまいります。膝や股関節の痛みでお困りの方は、お気軽に当科までご相談ください。



「あなたのお悩み、ズバッ!!と解決」 かだい病院 市民公開講座(10月4日)開催について

当院では、10月4日(日)に「あなたのお悩み、ズバッ!! と解決」と題し、市民公開講座を開催いたします。本講座では一般の方に向けて、当院の病院長および副病院長が6つのトピックについて、最新の治療内容を分かりやすく解説いたします。

参加には事前のお申し込みが必要となります。詳細については、香川大学医学部附属病院のホームページをご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしております。



 かだい病院が行っている 前立腺がんの最新治療 杉元 幹史 (泌尿器・副腎・腎移植外科)	 ここまで進んだ 消化器がん治療 岡野 圭一 (消化器外科)	 人生100年時代を支える ひざ関節治療 石川 正和 (整形外科)
 生死に直結する 心臓の手術 堀井 泰浩 (心臓血管外科)	 快適な麻酔で 痛みから解放されよう 荻野 祐一 (麻酔・ペインクリニック科)	 インプラントって 本当にいいの? 三宅 実 (歯・顎・口腔外科)

ケーブルTVで放送中

イキイキさめき健康塾

香川大学医学部附属病院 医療セミナー

詳しくはこちら



9月のテーマ 「前立腺がん」と新しい放射線治療のお話」

10月のテーマ 「骨軟部腫瘍について」

香川大学医学部附属病院特定基金が始まりました

地域医療の未来を守るために、温かいご支援をお願いいたします。

(ご寄附の用途)

- 外来・病棟の療養環境整備
- 救急・専門診療の体制強化
- 高度医療機器の更新・導入
- 臨床研究の推進



詳しくはこちら



編集委員会 (50音順)

(2026年6月現在)

阿部(看護)、岡内(外来)、尾崎(医事・医療支援)、塩田(経営企画)、多田(検査)、田中(病棟)、藤代(総務)、保科(管理)、見野(薬剤)、三宅(副病院長)、門田(放射線)、横井(医療情報)(委員長 杉元病院長)